

羽根北の家



住宅地に建つ二世帯住宅の計画である。個人住宅は公共的や周辺地域にどのように開きどこまで繋がるかが可能だろうか。本計画では「隣接する公園/敷地内のアプローチ/内部空間」を「ひとつながりの場」として計画し生活や子供たちの遊び場がシームレスな関係になるよう計画した。北側は庇と土間エントランス、南側にはプライベートガーデンを「緩衝スペース」として設けることで周辺環境と内部空間が緩やかに繋がっており、合わせて風の通り道となっている。世帯間は階段室と収納によるヴォリュームによって隔てられ引戸によってフレキシブルに区画されている。

2階は子世帯の居住スペースである。クライアントからの13の要望諸室を満たしながら互いに閉じることなく共存するために2階全体を一坪グリッドに分割し、境界としての垂直・懸壁を設置しそこに諸室を配置した。グリッド状の垂直壁は視界を遮らない無柱空間を実現している。懸壁は緩やかな境界として機能し立位時には全体が見渡せるパブリック空間となり、臥位や座位時は懸壁に隠れてプライベート空間となり、体位によって同一空間がパブリックとプライベートをあわせ持つ構成となっている。グリッドにあわせた居室配置は水回りを除き子供の成長に合わせてフレキシブルに用途を変えられるようになっており、また2つのインナーガーデンが採光と通風を担うことで室内は風に揺らめく植栽と自然光によって外部環境とつながっている。「住宅と周辺地域」「二世帯間」「居室におけるパブリックとプライベート」など各々の関係性を要点とした提案に対して、ご家族がそれぞれ双方を横断しながら自由に暮らされていることが嬉しく思う。



1階子世帯スペース。細長い空間は奥に進むにつれ光とスケールが増幅していく。

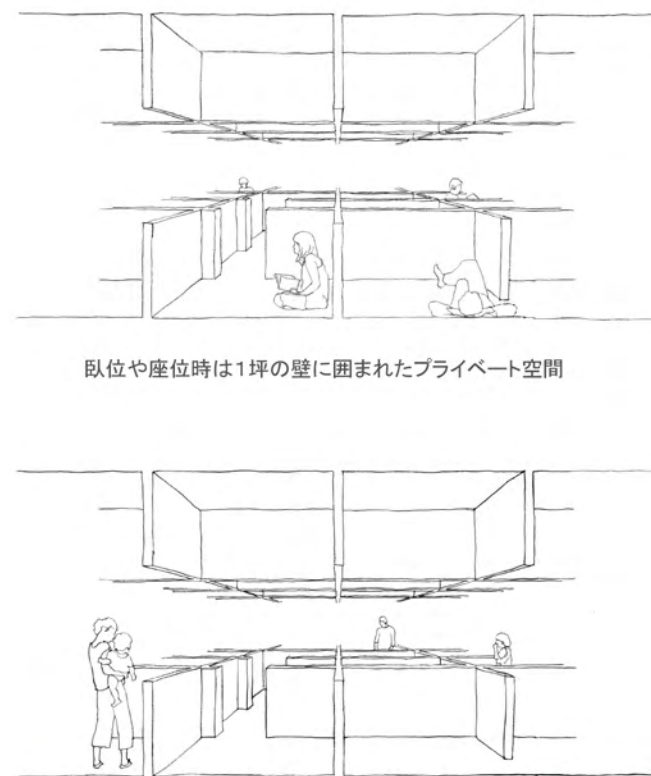


1階親世帯スペース。引戸を閉じた状態(上)、右側は居室スペースとなっており就寝時はカーテンにてスペースを分離。



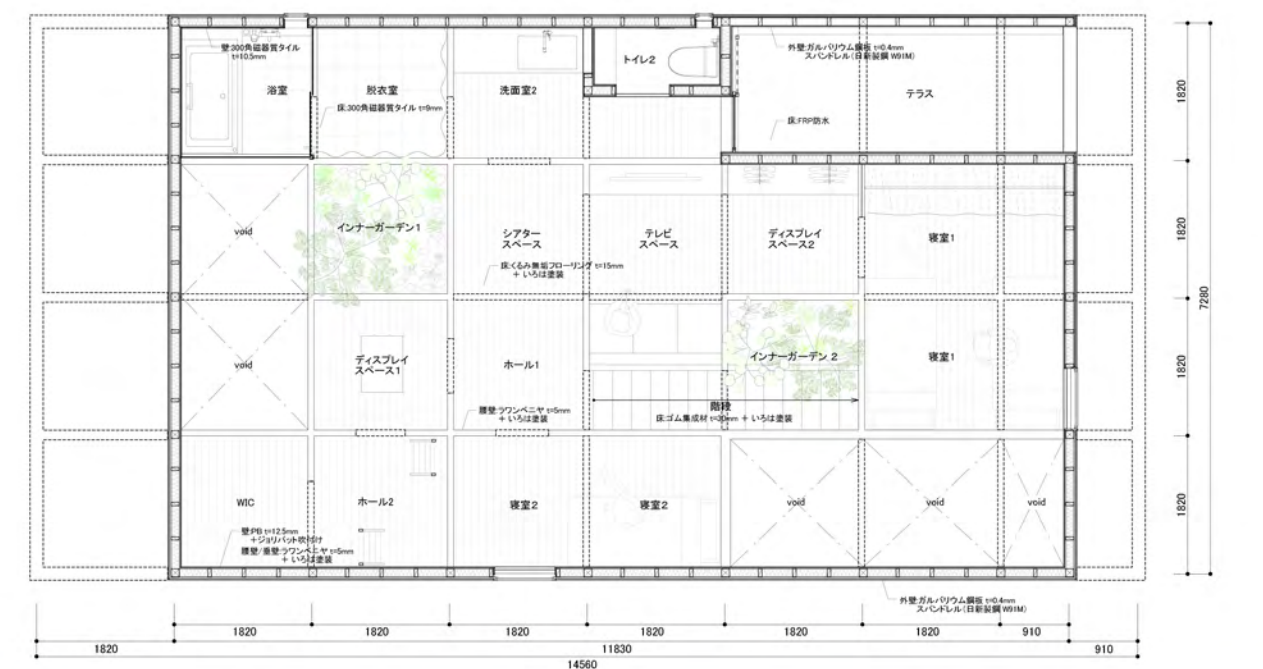
Site+1Fplan S.1:100

■ 懸壁と体位によるプライベートとパブリック



臥位や座位時は1坪の壁に囲まれたプライベート空間

立位や移動時は全体を見渡せるプライベート空間



2Fplan S.1:100

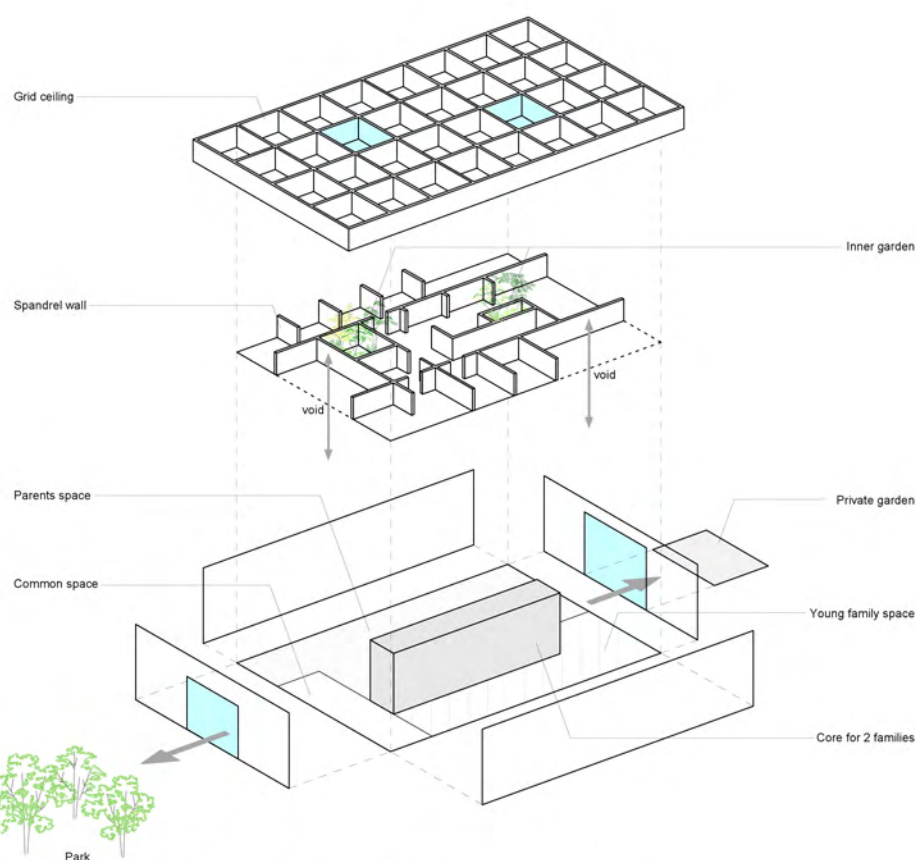


2階子世帯スペース。2つのインナーガーデンが室内に光と風を提供している。ワンルームであるが懸壁による境界によって緩やかに家族を隔てながら繋いでいる。



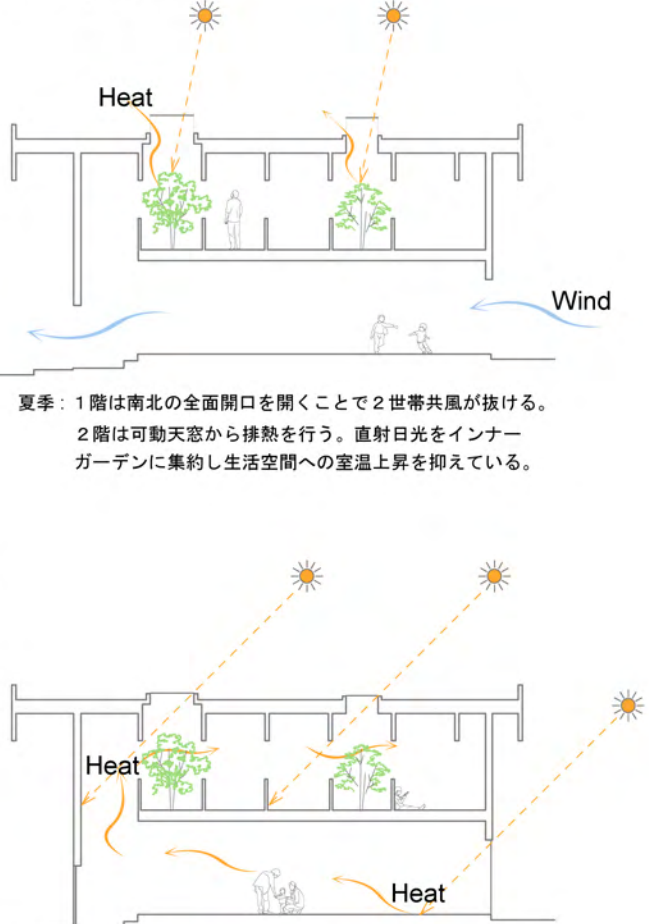
自然光が反射・拡散・届けることで室内が明るくなる。開口と室内の間接的な関係が適度な照度を生活空間に提供している。

■ 空間構成ダイアグラム



1階は南北の開口により外部環境と連続している。  
2階は複数の部屋がグリッドによって均等に分けられ懸壁が公私の境界として機能している。

■ 日射と断面



夏季：1階は南北の全面開口を開くことで2世帯共風が抜ける。  
2階は可動天窗から採熱を行う。直射日光をインナーガーデンに集約し生活空間への室温上昇を抑えている。

冬季：1階南から北側吹抜けに向けて暖気が移動し室内全体が温まる。  
2階は天窗からの直射日光が居室に届くよう断面計画を行った。

■ 断面詳細図 S1:100

